

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
489	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption, finasteride, and prostate cancer risk: results from the Prostate Cancer Prevention Trial. アルコール摂取、フィナステライド(finasteride:テストステロン 5 $\alpha$ 還元酵素阻害薬:前立腺肥大治療薬)と前立腺ガンとのリスク: the Prostate Cancer Prevention Trial より	
執筆者	
Gong Z, Kristal AR, Schenk JM, Tangen CM, Goodman PJ, Thompson IM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer. 2009 Aug 15;115(16):3661-9.	
キーワード	
アルコール摂取 フィナステライド 低分化型前立腺ガン 高分化型前立腺ガン	
要旨	
<p><b>目的:</b> アルコールと前立腺ガンとの関連は現在までの研究では結論が出ていない。本研究で著者らが検討したのは、全アルコール摂取・アルコールの種類・飲酒様式と（低分化型、高分化型、および全ての）前立腺ガンとのリスクである。</p> <p><b>方法:</b> 本研究のデータは、前立腺ガン予防試験 (the Prostate Cancer Prevention Trial : PCPT) のうち、7年間の追跡期間中に前立腺ガンが発見された 2129 人と試験終了時に生検にて同ガン認めなかった 8791 人である。前立腺ガンリスクとアルコールとの関連についての相対危険度 (RR) および 95%信頼区間 (95%CI) はポワソン回帰を用いて算出した。</p> <p><b>結果:</b> 高分化型ではアルコールとの関連は治療 (プラセボ群、フィナステライド群) による違いを認めなかった。両群を統合した解析では、大量飲酒 (アルコール換算 50g/日以上)、および定期大量飲酒 (4 ドリンク/日以下かつ週 5 回以上飲酒) は前立腺がんのリスク上昇と関連していた (それぞれ RR= 2.01[95%CI 1.33–3.05]、RR=2.17[95%CI 1.42–3.30])。大量飲酒に満たない飲酒はリスクとの関連を認めなかった。一方、低分化型では、治療による違いを認めた。プラセボ群では飲酒と前立腺がんリスクとの関連を認めなかった。フィナステライド群では大量飲酒とリスク上昇との関連が認められた (RR=1.89 [95%CI 1.39–2.56])。これは 50g/日未満飲酒男性にはフィナステライドによる 43%のリスク低減が認められた一方、50g/日以上飲酒男性にはそのようなフィナステライドによるリスク低減作用が認められなかったためである (交互作用を示す P 値=0.03)。</p> <p><b>結論:</b> 大量飲酒および定期的な大量飲酒は高分化型前立腺ガンとのリスクを上昇させる。フィナステライドによる同ガンとのリスク低減作用は大量飲酒者では無効である。</p>	